



西有田中学校だより  
第7号 (2025.6.17)  
文責：中尾恵子

# 至誠一貫

## 情報端末機器所持の責任と義務

令和7年度がスタートして、1学期の中間地点となりました。1年生も学校生活にすっかり慣れてきたところです。2・3年生も、明日から始まる中間テストでは、より一層真剣さが加わった顔つきでテストに取り組むことと思います。

そのような中に、心配なことのひとつとして、生徒が所持している情報端末機器（特にスマートフォン）の使用について心配しています。

毎年1年生技術科の「情報」の学習では、情報端末機器の所持や使用目的、利用についてのルールについての実態調査結果を学習の指針として活用しています。その回答として、

- ① 生徒の93%が自分専用の情報端末機器を所持
- ② 自分専用情報端末の80%がスマートフォン
- ③ 自分専用スマートフォンの使用目的は、ゲーム、ライン、インスタグラム、ティックトック、動画・音楽視聴
- ④ 家庭で利用ルールがあると答えた生徒は53%

おそらく、2・3年生にも似たような状況があると考えられます。そして、この時期から生徒や保護者様からやSNS使用についてのトラブルやいじめ事案、個人情報や肖像権が絡んだ内容についての学校への相談も格段に増加していきます。

生徒のスマートフォン所持や使用については保護者様の責任の下での管理や許可になっていることは御存知のことと思いますし、トラブルの内容次第では学校側での対応の範疇を超えると外部機関への相談となります。

持たせる・使用させるからには、使い方のマナーとルール、使用時間等、御家庭で確認したうえでの使用をお願いします。

## 食育への取組！

第18回佐賀県食育表彰(6/4表彰式)に教育関係者部門で、本校の栄養教諭 西沢 さやか先生が表彰を受けられました。平成20年に学校部門での受賞以来での栄誉です。西沢先生のこれまでの取組としては、佐賀県学校保健会報「エール」(2024;vol.20)にも掲載されました。

発表報告 有田町立西有田中学校 栄養教諭 西沢 さやか

### 健康的な食の在り方を考える生徒の育成 ～小・中学校9年間を見通した食育の実践～



- はじめに  
有田町には中学校2校、小学校4校があり、本校は通園の小学校2校より通学し、生徒数250名の中規模校である。本校の学校目標は、「自ら学び進んで行動し、互いを認め合う生徒の育成」である。
- 児童生徒の実態  
朝食の摂取率も高く(中2:97%)、「健康に食事は大切である」(中2:100%)と考えており、毎日の給食の摂取率はほぼ100%である。これまでの本校での実践をふりかえり、食に関する指導を行う際の【食育の視点】に留意があった。そこで、食に関する指導を行う際に、小・中学校9年間での【食育の視点】の6つを構築できるようにすることで、自分の健康に関心をもち、バランスのとれた食事の大切さを理解させることができ、児童生徒が健康的な食の在り方を考えることができるであろうと考え、この主題を設定した。
- 取組の実態  
年度初めに食に関する指導の全体計画や年間指導計画を作成し、学校教育活動全体で体系的・継続的に食に関する指導を行った。  
(1)教科等における食に関する指導  
9年間の総論を見直し、各学年の実態や発達段階に応じて、【食育の視点】を意識した食に関する指導を行った。  
(2)給食の時間における食に関する指導  
地産地消、食文化の伝承【食文化】を意識させる食に関する指導を行った。
- お弁当の日実施【食品を選択する能力】  
年1回お弁当の日を設定し、生徒に事前に自立を作成させ、お弁当づくりの指導を行った。
- 地域との連携【食文化・社会性】  
中学2年総合的な学習の時間におけるふさと連携し、地元産の食料で味噌づくり、味噌玉づくりを行った。
- 成果と課題  
○小学校から発達段階に応じた食育指導を行ったことで児童生徒は、健康な食を作るための実践につなげようとする態度がみられた。  
○お弁当の日を実施することで栄養バランスの大切さを意識したり、自分で弁当を作りたい生徒が約50%いたり、意欲の向上がみられた。  
○ふさと先生連携事業では、食事に関心をもって活動できた生徒が99%であった。生徒は、地元の食への関心を大いに深めたいと、郷土産も育むことができた。
- おわりに  
今後も小・中学校9年間を通して、【食育の視点】を継承した指導を行い、児童生徒が自分の健康を考えた食の在り方を実践できるよう、学校教育活動全体で継続的に取り組んでいく。



地域食材の利用、世界各国料理をモチーフにした調理実践や工夫された多彩なメニュー、食に関する授業づくりに取り組んでいただいています。私も、毎日の給食を大変楽しみにしています。

学校生活や家庭生活の様々な場面で、様々な方々の「支え」や「お陰」で不自由なく過ごせていくことに『感謝の気持ち』を持つことを考えることができれば良いですね。

切り取り線

返信欄

( ) 年 ( ) 組

生徒名 ( )

---



---



---